

どこの国でも好かれる「吉数」と、嫌われる「凶数＝忌み数」というものがあるものだ。日本では一般的に敬遠される数字として「4」と「9」がある。発音が縁起でもない「死」と「苦」をイメージさせるからである。そのため病院など医療機関では、「4」と「9」が付く病室や、フロアはまず見当たらない。「42(死に)」と「49(死苦)」も同様である。

プロ野球巨人軍で沢村英治投手の「14」とともに、永久欠番「4」を背負っていた黒沢俊夫選手は、呪われた背番号のせいか、活躍していたシーズン中に腸チブスに罹り33歳の若さで突如天に召されてしまった。

しかし、欧米では「4」は、むしろエンジェル・ナンバーとして天使さまが見守ってくれていると信じられている。四つ葉のクローバー、正方形のように安定した基盤、風・水・火・土の4元素、4つの方向を示している東西南北などは、昔から崇められている。

大リーグの名門ヤンキースでは、ペーブ・ルースの「3」と並び、打撃王ルー・ゲーリックの「4」が永久欠番になっている。大リーグ最初の黒人選手として大活躍したジャッキー・ロビンソンの背番号は、日本の忌み数「42」だった。だが、有色人種のメ

ジャー・リーガーへの道を開いた実績が評価され、所属したドジャースばかりでなく、今や大リーグ全球団が「42」を永久欠番に採用しているほどである。また、東西ともに「7」は吉数で、ラッキー・セブンとも、七福神とも繋がっている。

その反面、ヨーロッパでは、「13」がとかく敬遠される。一説に最後の晩餐でイエス・キリストを裏切ったのが、13人目の弟子ユダだったからだと言われている。同じく「13」が凶数と考えられているアメリカでも、その崇りだろうか、偶々1970年4月11日13時13分に打ち上げられたアポロ13号が、翌々日13日に酸素タンクが爆発する事故を起こした。

嘩然とするのは、イタリア人が「17」を嫌うこだわり方である。「17」のローマ数字「XVII」を並べ替えると墓石の刻字「VIXI」となり、それはラテン語の「VIXO」（生きている）の過去形で「生きていた」、つまりすでに「死んだ」との意味から不吉な数字として定着したらしい。イタリアのホテルに「17号室」はなく、空港に「17番ゲート」もなく、アリタリア航空に「17便」なく、機内にも「17列目」がないくらい徹底している。

ことほど左様にどこでも口時や、数字には吉数と凶数があるものだ。しかし、あまり考え過ぎると、どこへも出かけられなくなってしまいますのでご用心ご用心。 エッセイスト 近藤 節夫